

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

タバココナジラミのウリ類退緑黄化ウイルス（CCYV）保毒状況と防除対策（技術情報第12号）について（送付）

ウリ科野菜栽培地域においてウリ類退緑黄化ウイルス（CCYV）を保毒したタバココナジラミの発生状況を調査するため、8月上旬、屋外に黄色粘着板を設置しました。

その結果、黄色粘着板に誘殺されたタバココナジラミに本ウイルス（CCYV）の保毒が確認されました。CCYVは生育初期に感染すると被害が大きいので、防除対策を徹底しましょう。

#### 記

### 1 調査結果

- 1) 8月上旬に、ウリ科野菜栽培地域の3地点の屋外に設置した黄色粘着板（10×10cm）に誘殺されたタバココナジラミは、3.8頭/日/枚であった。
- 2) 3地点で黄色粘着板に誘殺されたタバココナジラミのうち、2地点で採取されたタバココナジラミでCCYVの保毒が確認され、平均の保毒虫率は3.8%であった。また、保毒虫数は0.15頭/日/枚であった。

### 2 防除対策

- 1) 本ウイルスは、タバココナジラミによってウリ科作物からウリ科作物へ媒介される。対策の基本は、発生ほ場から未発生ほ場へ繋がる伝染環を切断することである。
- 2) タバココナジラミを施設外に「出さない」対策を徹底する。現在栽培中のほ場では、栽培終了まで、タバココナジラミの防除を徹底する。
- 3) 栽培終了後は直ちに密閉処理を行い、ほ場内のタバココナジラミを死滅させる。密閉できないほ場では、成虫に効果の高い薬剤で防除したうえで片付ける。
- 4) これから定植するほ場では、タバココナジラミを栽培ほ場に「入れない」対策を徹底する。施設のサイド開口部に目合い0.4mm防虫ネット、谷換気部に目合い1mm以下の防虫ネットを被覆する。
- 5) 定植2～3日前に、定植予定の苗の株元へ粒剤を処理し、定植直後のウイルス感染を防ぐ。また、粒剤の効果が低下する定植20～30日後に成虫に効果の高い薬剤を散布する。
- 6) 育苗ハウスから苗を運ぶ際には、移動中にタバココナジラミが寄生しないよう、運搬車等の荷台を防虫ネットや幌等で覆う。
- 7) 施設内の発病株や周辺の野良生えは、重要な伝染源となるので除去する。

備考：黄色粘着板（10×10cm）をウリ科栽培地域3地点に約7日間、1地点当たり4枚設置。誘殺数は、1枚当たりの1日の誘殺数（頭/日/枚）。保毒虫率は誘殺されたコナジラミをRT-PCRにより検査。保毒虫数（保毒虫/日/枚）は、誘殺数（頭/日/枚）×保毒虫率（保毒虫/検定数）。

熊本県農業研究センター 生産環境研究所  
病害虫研究室 予察指導係（病害虫防除所）  
担当：荒木、児玉 TEL：096-248-6490